

R5GIGAスクール事業実績及び今後の取組

【令和5年度取組】

ICT教育研究協力校

→令和5年度は令和5年8月1日の委員会で発表したICT教育研究協力校事業の取組を中心とした取組を実施した。詳細は別紙1のとおり。令和5年度事業の成果及び課題を踏まえて「香美市スタンダード」を作成（3月末に完成予定）し、令和6年度以降は当スタンダードに基づいた取組を市内全校で実施する。



R5.6/27 中川P楠目小視察



R6.2/28 アドバイザー委員舟入小視察



R6.2/29 アドバイザー委員 JAET全国大会誘致に向けた高知工科大学視察

【令和6年度以降の取組】

アドバイザー委員会委員の協力を得て、令和8年度にJAET（日本教育工学協会）の全国大会を香美市に誘致するべく活動している。大会計画案は別紙2のとおり。当大会の開催に向けて令和6年度以降は以下のとおり取組を行う。

・全国大会誘致に向けた取組

→令和6年度に近隣市町村（高知市、南国市、香南市等）の参加も得て準備委員会（研究会）を設立予定。

・学校情報化優良校申請（JAET認定）

→全国大会開催に向け、令和7年度までに市内小中学校全校を学校情報化優良校にすることを目標に、JAETが規定するチェックリスト（別紙3のとおり）の内容に沿った改善に取り組む。

・香美市スタンダードの実践

→3月末に完成予定の市スタンダードに沿った取り組みを令和6年度から市内全校で実施。香美市スタンダードICTスキル表（別紙4のとおり）の内容にそった改善に取り組む。

・その他

タブレット端末及び関連ソフト等の更新は令和7年度に実施を予定している。

令和5年度 GIGAスクール事業実績

2024/4/18

項目	Ⅰ期			Ⅱ期			Ⅲ期			
	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
ICT教育研究協力校	市内5校を研究協力校として指定 (R5. 4月)	ICT教育研究・実践			公開授業研 (大栃小中) (R5. 10/24)	ICT教育研究・実践			香美市スタンダード完成	
GIGAスクール推進事業検証委員会		第1回検証委員会 (R5. 7/11)			第2回検証委員会 (R5. 10/3)					第3回検証委員会 (R3. 3/28)
アドバイザー委員会				第1回アドバイザー委員会 (R5. 9. 15)					第2回アドバイザー委員会 (R6. 2. 29)	
アドバイザー訪問	関西大学 黒上P視察 (R5. 6/14~6/15) 大栃小中・香長小・大宮小 東みよし市屋間小学校 長 中川P視察 (R5. 6/27) 楠目小・香北中			アドバイザー委員会委員視察 9/14: 香北中・山田小 9/15: 香長小・楠目小					アドバイザー委員会委員視察 2/28: 舟入小 2/29: 片地小	
情報教育研究会	第1回情報教育研究会 (R5. 5/16)				第2回情報教育研究会 (R5. 10/24)					第3回情報教育研究会 (R6. 2/15)
市主催ICT研修			教職員ICT利活用研修 基礎編 (R5. 8/25)			教職員ICT利活用研修 応用編 (R5. 11/16)				

【補足説明】

・ICT教育研究協力校

ICT教育研究協力校として市内5校（拠点校：大栃中、研究校：大栃小、香長小、楠目小、香北中）を指定。「学びを変える取り組み」「働き方改革に係る取組」について、勤務校での研究・実践を行い、ICTを活用したモデル授業や取組を推進し、実践や成果について市内小・中学校に情報提供を行うとともに、各校の取組をもとに令和6年度以降の香美市ICT教育の標準化の参考として、香美市スタンダードを作成（市教委でとりまとめ）し、市内全学校にその内容を普及する。

・GIGAスクール事業検証委員会

GIGAスクール事業を検証するため令和3年2月に設立。年2回～3回程度開催。

委員長：中村直人（高知工科大学教授）

委員：ICT教育研究協力校の校長5名及び保護者代表1名

・アドバイザー委員会（夢デザイン総合研究所主催）

令和4年10月から実施しているGIGAスクールサポート委託業務（委託業者：夢デザイン総合研究所）の一環として令和5年1月に設置。年2回程度アドバイザー委員による学校視察及び委員会を開催し、市内学校及び市教委に対してICT教育に関して助言を行う。

委員長：山西潤一（JAPET & CEC会長）

委員：中村直人（高知工科大学教授）、黒上晴夫（関西大学教授）、野本範子（リコージャパン）、山口 洋（ラインズ代表取締役社長）、稲垣健（ラインズ顧問）、竹元 賢治（ダイワボウ情報システム㈱）

ゲスト：川瀬徹（東京書籍）、森下耕治（光村図書出版）

第 52 回全日本教育工学研究協議会全国大会 2026
高知大会開催概要（誘致案）

◎開催日程：2026 年（令和 8 年）10 月 23 日（金）・24 日（土）

◎会場：

全体会

メイン会場：高知工科大学香美キャンパス／

講堂（約 650 席）＋250 席（サテライト）

講演時にはサテライト会場に中継（大教室を複数設置）

<https://www.kochi-tech.ac.jp/about/campus/kami.html>

研究発表

・企業展示・セミナー／探究・バカロレアを作る）

初日懇親会：サザンシティホテル（南国市）バスで大学・高知駅を送迎

<https://www.kochi-tech.ac.jp/about/campus/eikokuji.html>

◎主催：日本教育工学協会（JAET）

JAET 高知大会運営事務局（近日中に準備会を設立予定）

◎共催：高知県 ICT 利活用推進協議会（代表：上村安和／香美市立大柘中学校校長）

高知市教育委員会

香美市教育委員会

香南市教育委員会

南国市教育委員会

高知工科大学

◎後援：高知県教育委員会

ほか・文科省・総務省・経産省・デジタル庁

◎参加者宿泊地：高知市・南国市ほか

◎参加者予想：1,200 名（最大 1,500 名）

高知県内及び四国：800 名（自動車を使用と予測）

高知県外（研究者・企業を含む）：700 名（鉄道・バス・レンタカー）

高知駅・土佐山田駅を含む 50 人乗りのバス 12 台から 15 台

12 台は事務局（実行委員会）が手配。残りは共催団体に協力を仰ぐ

◎授業公開：2026 年（令和 8 年）10 月 23 日（金）

※内容は調整中

◎研究発表：従来通りのコースのほか

探究型授業（IB スクールを含む）の挑戦と経過報告のコース

◎企業展示：JAPET&CEC、日本 ICT 支援員協会ほか教育関連団体のほか
共催団体ほか高知県（四国）ブースを設置

（高知市・香美市・香南市・南国市ほか四万十市・須崎市
丸亀市・松山市など四国内の先進自治体）

◎移動手段：JR 高知駅・JR 土佐山田駅（山田小学校へは徒歩 5 分）

土佐山田駅からバス 6 台を循環
高知駅前よりバス 6 台

◎公開セミナー（講師派遣・検討）

◎関連企画：①前夜祭 10 月 22 日（木）

主催：教育における ICT 利活用推進協議会

（会長：山西潤一、副会長：木村裕文）

会場：高知工科大学永国寺（高知市）キャンパス

<https://www.kochi-tech.ac.jp/about/campus/eikokuji.html>

懇親会：高知市内の飲食店

②エクスカージョン 10 月 25 日（日）

（各コース バス 1 台、参加費 1,000 円／入場料と学芸員の解説費用込み）

A コース 高知県立図書館（オーテピア）・牧野植物園

B コース 高知城・龍馬記念館（桂浜）

C コース アンパンマンミュージアム・龍河洞（鍾乳洞）ほか



教育の情報化の推進を支援する

学校情報化認定

GIGAスクール構想対応チェックリスト更新版

<https://check-ict.jaet.jp/>

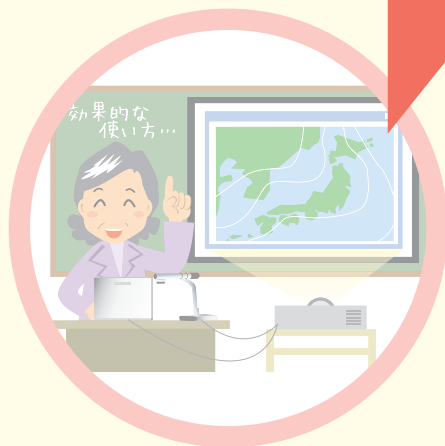


日本教育工学協会 (JAET)

Japan Association for Educational Technology

<http://www.jaet.jp/>

● 後援 文部科学省 ●



学校情報化認定とは

日本教育工学協会(JAET)は、教育の情報化の推進を支援するために、学校情報化診断システムを活用して、情報化の状況を自己評価し、総合的に情報化を進めた学校(小学校、中学校、高等学校)を認定する学校情報化認定に2014年度から取り組んでいます。

「情報化の推進体制」を整え、「教科指導におけるICT活用」「情報教育」「校務の情報化」に積極的に取り組んでいる学校を称え、**学校情報化優良校**として認定します。そして、学校情報化優良校が一定以上の割合になった地域を**学校情報化先進地域**として認定します。また、特に優れた取り組みを行っている学校を**学校情報化先進校**として表彰します。

学校情報化診断システムに登録すると、全国の学校との比較や、既に優良校の認定を受けた学校の申請内容(エビデンス)を参照することが可能となります。また、優良校の審査は、JAETの役員で構成される学校情報化認定委員会が定めた基準に従って行いますので、客観的な評価を受ける貴重な機会となります。

学校情報化優良校



ロゴイメージ



教育の情報化に総合的に取り組み、情報化によって教育の質の向上を実現している学校を**学校情報化優良校**として認定します。

認定基準

- ◆各項目のレベルが1以上(0の項目がないこと)
- ◆学校情報化チェックリストのすべての項目の平均が2以上であること

上記の基準を満たした上で、指定されたエビデンス(自己評価の裏付けとなる各種情報・資料)をすべて入力した学校を対象に、学校情報化認定委員会が審査して認定します。

※学校情報化優良校の認定の有効期間は、認定を受けた年度を含めて3年間です。認定期間が終了する年の1月から6月の間(3月を除く)にエビデンスを更新した上で、再度、申請してください。

学校情報化先進校

(応募期間:毎年4月~6月頃予定)



ロゴイメージ



学校情報化優良校として認定された学校のうち、「教科指導におけるICT活用」「情報教育」「校務の情報化」のいずれかのカテゴリにおいて、当該年度に、他に比べて特に優れた先進的な取り組みを行っていると認められた学校を**学校情報化先進校**として表彰するものです。

応募基準

- ◆学校情報化優良校として認定を受けていること
- ◆学校情報化チェックリストのすべての項目のレベルが2以上、かつ応募するカテゴリの5項目の内3項目以上のレベルが3であること

上記の基準を満たした応募校の中から、書類審査及び訪問調査により、学校情報化認定委員会が毎年、数校を選定します。

※毎年1回開催される全日本教育工学研究協議会全国大会において表彰します。

学校情報化先進地域

(随時応募可能)



ロゴイメージ



学校情報化優良校として認定された学校が、自治体で一定の割合に達した地域を**学校情報化先進地域**として認定するものです。

審査基準

- ◆自治体において、学校情報化優良校の割合が80%以上であること(校種別に申請可能)

上記の基準を満たし、応募に必要な書類を提出した教育委員会の中から、書類審査及び訪問調査により、学校情報化認定委員会が認定します。

※地域内の優良校が再認定を受けず、基準を満たさなくなった場合には、先進地域の認定を取り消します。

学校情報化認定の流れ

学校情報化優良校

学校情報化診断システムへのユーザー登録

<https://check-ict.jaet.jp/>

学校情報化診断システム(チェックリスト)による自己評価

学校情報化優良校認定基準のチェック

- 各項目のレベルが1以上(0の項目がないこと)
- 全項目の平均が2以上

エビデンスの入力、認定申請

学校情報化認定委員会の審査、認定

認定に必要なエビデンス(例)

- 学校情報
 - ・普通教室に常設されているICT機器
 - ・校内LAN, 学習者用端末の整備状況
 - ・デジタル教科書等の導入状況
 - ・校務支援システム等の整備状況
 - ・ICT支援員の配置状況
- 写真
 - ・教員のICT活用による指導場面
 - ・児童生徒のICT活用による学習場面
- 資料
 - ・学校全体の情報化の状況について
 - ・情報活用能力育成の指導計画等

学校情報化先進校

※学校情報化優良校の認定後

学校情報化診断システム(チェックリスト)による自己評価(再)

学校情報化先進校応募基準のチェック

- 学校情報化チェックリストのすべての項目のレベルが2以上、かつ応募するカテゴリの5項目の内3項目以上のレベルが3であること

エビデンスの入力、応募申請

学校情報化認定委員会委員の訪問調査

学校情報化認定委員会の審査、表彰

応募に必要なエビデンス(例)

- 研究指定・助成・発表等の実績
- 情報セキュリティ、個人情報等の運用指針
- 校内研修の計画
- 特色ある取り組みについての説明
- 管理職の情報化に対するマネジメントの工夫
- 先進性、発展性や効果についての説明
- 外部との連携、地域への波及効果

学校情報化先進地域

※以下の条件を満たした後

- 自治体が管理するすべての学校を学校情報化診断システムに登録していること
- 自治体において、学校情報化優良校の割合が80%以上であること

nintei@japet.or.jp宛に
件名「先進地域認定申請(教育委員会名)」
担当者を明記してメール送信

先進地域認定申請用アカウントの発行

エビデンスの入力、認定申請

学校情報化認定委員会委員の訪問調査

学校情報化認定委員会の審査、認定

認定に必要なエビデンス(例)

- 地域の情報化推進計画
- 教育の情報化の推進体制、教員研修の取り組み
- 教育の情報化に関する地域の特色ある取り組み

学校情報化優良校には、認定証及び優良校ロゴが贈られます。

学校情報化先進校には、表彰状及び先進校ロゴが贈られます。

学校情報化先進地域には、認定証及び先進地域ロゴが贈られます。

★学校情報化認定の詳細については、日本教育工学協会(JAET)のWebを参照してください。(<http://www.jaet.jp/>)

学校情報化診断システム & 学校情報化認定

<https://check-ict.jaet.jp/>

まず、あなたの学校の情報化の状況を自己評価しましょう。
 全国平均との比較や定期的に自己評価することで、進捗状況を把握することが可能です。
 認定済みの優良校のエビデンスを参考にすることもできます。
 基準を満たすと「学校情報化優良校」への申請が可能となります。

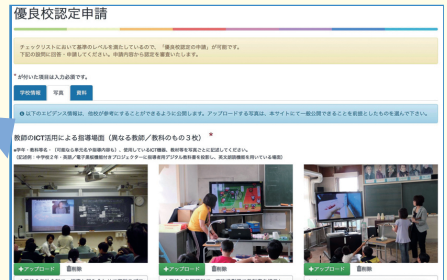
申請する前に「学校情報化優良校認定申請へのアドバイス」を必ず参照してください
<http://www.jaet.jp/katudou/nintei/youryouad.html>

学校情報化優良校への申請 (平均レベル2以上)



学校の情報化の状況を4カテゴリ20項目のチェックリストで自己評価します。

自己評価の結果は、10回まで登録可能です
 以前の状況や全登録校の平均値と比較することが可能です。



学校情報、写真、資料のカテゴリごとに必要なエビデンスを入力します。
 認定済みの優良校のエビデンスは相互に参照することができます。

学校情報化先進校への応募 (JAET全国大会での表彰へ)

学校情報化認定事業にご協賛いただいている企業



「いい学校づくり」
 「いい教育づくり」を支援します。
 「いい授業づくり」



あたりまえを超え、みらいを創る
<https://www.jmc.ne.jp/>



2021年 順次提供予定
 教育クラウドサービス



スズキ教育ソフト株式会社
<https://www.suzukisoft.co.jp>

学校情報化診断システムは、パナソニック教育財団「平成22年度 先導的実践研究助成」(学校の情報化の状況を具体的に示す学校の情報化指標の開発/研究代表者:野中陽一)によって開発したものをベースに、学校情報化認定のためのシステムを組み込んだものです。

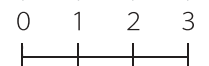
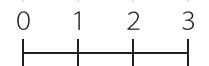
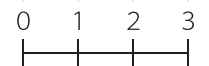
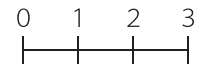
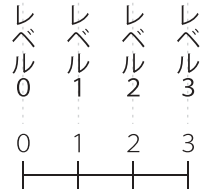
管理、運営は、学校情報化認定委員会(日本教育工学協会内)が行います。

◆ 問い合わせ先: 日本教育工学協会 学校情報化認定委員会
 〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル8F
nintei@japet.or.jp

教科指導におけるICT活用



先進的・発展的な取り組みが行われている状態
学校として十分な取り組みが行われている状態
部分的に取り組みられている状態
取り組みが不十分な状態



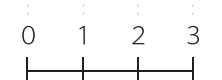
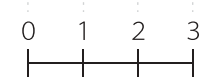
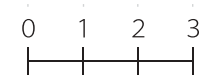
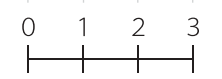
	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3
教材研究・指導の準備・評価等におけるICT活用 	ほとんどの教員が、授業の準備と評価のためにICTを活用している □□□	ほとんどの教員が、授業の準備と評価のために日常的にICTを活用している ■□□	すべての教員が、授業の準備と評価のために効果的にICTを活用している ■■□	学校全体で、さまざまな評価結果をもとに、ICTを活用した授業改善に取り組んでいる ■■■
教員のICT活用 	ほとんどの教員が、教科等の指導にICTを活用している □□□	ほとんどの教員が、教科等の指導に日常的にICTを活用している ■□□	すべての教員が、教科等の指導に日常的にICTを活用している ■■□	学校全体で、教科等の指導に日常的にICTを活用し、より効果的な活用方法について研究している ■■■
学習の定着のためのICT活用 	学習内容を定着させるための個別学習、繰り返し学習等において、児童生徒のICT活用がみられる □□□	学習内容を定着させるための個別学習、繰り返し学習等における児童生徒のICT活用が、一部の学年や教科で計画的に行われている ■□□	学習内容を定着させるための個別学習、繰り返し学習等における児童生徒のICT活用が、学校全体の指導計画に位置付けられている ■■□	学習内容を定着させるための個別学習、繰り返し学習等における児童生徒のICT活用が、学校全体の指導計画に位置付けられているとともに、家庭学習でのICT活用と連携し、オンライン学習にも対応している ■■■
ICT活用による学力向上 	ICT活用が学力向上に効果があることを一部の教員が実感している □□□	ICT活用が学力向上に効果があることをほとんどの教員が実感している ■□□	学校として、ICT活用が学力向上に効果があることをデータによって把握している ■■□	ICTを効果的に活用することによって、主体的・対話的で深い学びを実現しているエビデンスを示すことができる ■■■
普通教室における指導用ICT環境 	一部の普通教室に大型提示装置が整備されているか、または学年等で共有している □□□	すべての普通教室に大型提示装置が常設されている ■□□	すべての普通教室に大型提示装置が常設されており、実物投影装置やデジタル教科書等のコンテンツが整備されている ■■□	すべての普通教室・特別教室に大型提示装置が常設されており、実物投影装置やデジタル教科書等のコンテンツの整備に加え、ICT活用が効率的に行われるように機器の配置等が工夫されている ■■■

情報教育



先進的・発展的な取り組みが行われている状態
学校として十分な取り組みが行われている状態
部分的に取り組みられている状態
取り組みが不十分な状態

	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3
ICTの基本的な操作の習得 	基本的な操作スキルを習得させるための指導内容や頻度が教員個々に任されている □□□	基本的な操作スキルを習得させるための指導が計画的に行われている ■□□	学校全体の指導計画に位置付け、基本的な操作スキルを習得させるための指導が行われている ■■■	学校全体の指導計画に位置付け、基本的な操作スキルを習得させるための指導の効果について評価している ■■■
情報活用能力の育成・評価 	情報活用能力の育成を意図した学習活動の内容や頻度が教員個々に任されている □□□	情報活用能力を育成する学習活動が計画的に行われている ■□□	情報活用能力を育成する学習活動が指導計画に位置付けられ、学校全体として取り組んでいる ■■■	情報活用能力を各教科等の学習と効果的に関連付けて育成するためのカリキュラム・マネジメントが有効に働いている。 ■■■
プログラミング教育 クリックされた時 6回くりかえす 3歩前にすすむ 右にまがる ○○…… □□…… 	プログラミングに関わる学習活動の内容や頻度が教員個々に任されている □□□	プログラミングに関わる学習活動が計画的に行われている ■□□	プログラミングに関わる学習活動が指導計画に位置付けられ、学校全体として実施されている ■■■	プログラミングに関わる学習活動が指導計画に位置付けられ、学校独自で工夫しながら計画的に実施されている ■■■
情報モラル 	児童生徒の情報モラルを指導・育成するための授業が実施されていないか、指導する内容や頻度が教員個々に任されている □□□	児童生徒の情報モラルを指導・育成するための授業が計画的に実施されている ■□□	児童生徒の情報モラルを指導・育成するための授業や啓発が、家庭、地域と連携しながら、計画的に実施されている ■■■	情報モラルを育成するためのカリキュラムを作成し、家庭、地域と連携しながら、計画的に実施し、評価や検証を行っている ■■■
児童生徒のICT活用環境の整備 	学習者用端末や無線 LAN 等が1人1台の活用に対応できるような整備されていない □□□	学習者用端末や無線 LAN 等の整備により、授業展開に応じて児童生徒が1人1台を活用する環境が整備されている ■□□	学習者用端末やアカウント、無線 LAN 等、全ての児童生徒が日常的に1人1台を活用する環境が整備されている ■■■	学習者用端末やアカウント、無線 LAN 等が整備され、全ての児童生徒が日常的に1人1台を活用しており、クラウドの活用、オンライン学習、持ち帰り等にも対応している ■■■



【プログラミング教育】について
■中学校・高等学校
 中学校では「技術・家庭科(技術分野)」、高等学校では「情報科」の指導計画に位置づけられ、実施されなければ可とします。

校務の情報化



先進的・発展的な取り組みが行われている状態
学校として十分な取り組みが行われている状態
部分的に組み込まれている状態
取り組みが不十分な状態

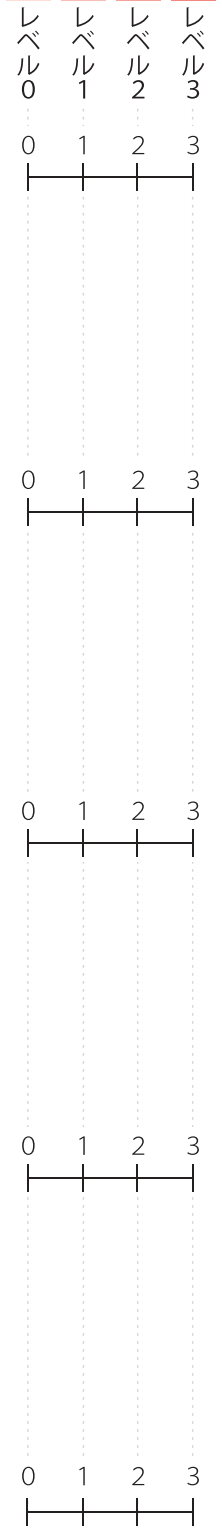
	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3	
校務用PCと校務支援システムの整備・運用 	教員1人1台の校務用PC、セキュリティソフトが整備され、運用されている □□□	教員1人1台の校務用PC、セキュリティソフト、校務支援システム等が整備され、運用されている ■□□	教員1人1台の校務用PC、セキュリティソフト、校務用ネットワーク、統合型校務支援システムが整備され、運用されている ■■■	教員1人1台の校務用PC、セキュリティソフト、校務用ネットワーク、安全性が確保されたクラウド型の統合型校務支援システムが整備され、効果的に運用されている ■■■	レベル0 0 レベル1 1 レベル2 2 レベル3 3
業務改善・効率化 	校務の情報化によって、校務が効率化されたが、負担軽減にはつながっていない □□□	校務の情報化によって、校務が効率化され、負担軽減につながっている ■□□	校務の情報化によって、校務全般が効率化され、負担軽減がなされている ■■■	校務の情報化によって、校務全般が効率化され、負担軽減がなされている。さらに、評価情報の共有・活用により、授業改善、業務改善につながっている ■■■	0 1 2 3
学校ウェブサイト 	学校ウェブサイトを開設しているが、更新の頻度は少ない □□□	学校ウェブサイトを開設しており、定期的に更新している ■□□	学校ウェブサイトを開設しており、行事や学習活動の様子等を日常的に公開し、電子メールの一斉配信等保護者への連絡手段を有している ■■■	学校ウェブサイトで日常の活動の様子や学校評価等を情報公開しており、電子メール等により保護者とのコミュニケーションを行なっている ■■■	0 1 2 3
保健・図書・一般事務等の情報化 	保健・図書・一般事務等で扱うデータや文書等のデジタル化はほとんどなされていない □□□	保健・図書・一般事務等で扱うデータや文書等の多くをデジタル化している ■□□	保健・図書・一般事務等で扱うデータや文書等のほとんどはデジタル化され共有されており、一部はデータベース化されている ■■■	保健・図書・一般事務等で扱うデータや文書等がデータベース化されて、担当者間の効率的な連携やペーパーレス化などが進められている ■■■	0 1 2 3
情報化に関する規則の遵守 	校務の情報化に関わる情報セキュリティや個人情報、著作権等の取り扱いなどの指針を定めている □□□	校務の情報化に関わる情報セキュリティや個人情報、著作権等の取り扱いなどの指針の周知徹底が進められている ■□□	校務の情報化に関わる情報セキュリティや個人情報、著作権等の取り扱いなどの指針に従って、適切に運用・推進されている ■■■	校務の情報化に関わる情報セキュリティや個人情報、著作権等の取り扱いなどの指針が徹底され、遵守されているか点検している ■■■	0 1 2 3

情報化の推進体制



先進的・発展的な取り組みが行われている状態
学校として十分な取り組みが行われている状態
部分的に組み込まれている状態
取り組みが不十分な状態

	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3
管理職のリーダーシップと学校の情報化のビジョン 	学校の全体計画に情報化が位置付けられており、管理職の役割が明確になっている □□□	学校の全体計画に情報化が位置付けられており、管理職のリーダーシップが発揮されている ■□□	学校の全体計画に情報化が位置付けられており、管理職を含むリーダーシップチームにより推進されている ■■■□	学校の全体計画に情報化が位置付けられており、管理職を含むリーダーシップチームにより、持続的・計画的な教育の情報化が推進されている ■■■■
情報化担当教員 	情報化担当教員（情報主任等）が学校の情報化の普及に努めている □□□	情報化担当教員（情報主任等）が管理職と連携して、学校の情報化の普及に寄与している ■□□	情報化担当教員（情報主任等）が管理職と連携して、学校全体の情報化の普及・定着のために貢献している ■■■□	情報化担当教員（情報主任等）が中心となって、教科横断的なカリキュラム・マネジメントを行い、学校全体の情報化を持続的・計画的に推進している ■■■■
情報化推進組織・校務分掌 	情報化を推進する組織が校務分掌に位置付けられている □□□	情報化を推進する組織が校務分掌に位置付けられ、学校全体の普及・定着に寄与している ■□□	管理職、情報化担当教員（情報主任等）、情報化を推進する組織が一体となって、学校全体の情報化の普及・定着のために貢献している ■■■□	情報化を推進する組織が機能し、学校全体の情報化による教育改善が実現している ■■■■
教員のICT活用指導力とその向上のための校内研修 	校内研修は行われているが、教員のICT活用指導力の向上は限定的である □□□	日常的な情報交換に加え、ICT活用指導力向上のための校内研修が計画的に行われている ■□□	校内研修が計画的に行われており、ほとんどすべての教員がICT活用指導力を身に付けている ■■■□	より高いICT活用指導力を身に付けるために、校内研修が工夫され、ICTを活用した授業研究が計画的に実施されている ■■■■
外部との連携、外部人材の活用 	情報化の推進のために教育委員会を含む外部から何らかの支援を受けている □□□	情報化の推進のために教育委員会を含む外部からの支援を受けたり、外部人材の活用を行ったりしている ■□□	情報化の推進のために大学や企業等外部からの支援を受けたり、ICT支援員の配置や外部人材の活用を行ったりしている ■■■□	研究指定・助成や大学・企業等との連携等、情報化の推進のための外部支援を受けたり、ICT支援員の配置や外部人材の活用継続的に取り組んでいる ■■■■



	学習内容	小学校下(低)学年	小学校上(高)学年	中学校	学校・教育委員会
A 活動スキル	A1 記録と編集	写真や動画の撮影、音声の記録ができる	写真や映像、音声の加工・編集ができる	目的や情報の種類に応じてアプリケーションを選択、活用できる	動画記録・編集ソフトの調査・整備
	A2 PCの操作	ローマ字で文字入力ができる ID/パスワード入力ができる	ファイル・フォルダを理解して管理ができる	クラウド等を用いた協働作業のためにコンピュータを活用できる	タイピングソフト・ツールの調査 タイピングシールの準備
	A3 ウェブ検索	キーワードで検索ができる	サイトの構造を理解して情報を見付けられる	AND, ORなど条件を工夫して検索できる	フィルタリングソフトの調査と整備 フィルタリング状況の確認と調整
	A4 図書利用	図書館内にある本を見付けることができる	目次や索引を活用して情報を見つけることができる	図書・新聞のメディアの特徴を理解して必要な情報を見つけ、整理・分類し、まとめることができる	図書館との連携・図書館システムの連携・整備 図書館利用の準備と利用状況把握
	A5 インタビュー	質問を用意することができる	下調べをしてインタビューするべき質問を選ぶことができる	インタビューに答えやすいように質問の順番を工夫することができる	学校周辺の地域(住民・工場や公共施設等との情報交換) 大学・研究機関・有識者との情報交換・交流
	A6 アンケート	何を聞くか質問を考え、質問することができる	目的にあった質問の形式や内容を考え、質問の回答を整理・まとめることができる	集計・分析できるように適切な設問文や選択枝を作成できる	集計・分析ツールの調査・開発等
	A7 メモ	大事だと思ったところを短い言葉で書くことができる	箇条書き・単語でポイントをまとめる	書く場所や矢印・強調などで工夫する	デジタルデータへの手書きツールの調査・整備
	A8 口頭発表	(物を見せながら)大きな声でわかりやすく話す	(資料を効果的に示しながら)身振りや声の抑揚など伝え方を工夫する	(資料を活用しながら)聴衆とのやりとりも含めて伝え方を工夫する	定期・不定期の学校視察と好事例の把握・収集
B 探究スキル	B1 取捨選択	課題解決に役立つ情報を選ぶことができる	情報を一覧した上で必要情報を選択し、選んだ根拠を説明することができる	信頼性や信ぴょう性を考えて情報を選ぶことができる	巨大化していくサイト・アーカイブの状況把握と整理
	B2 読み取り	ひとつの資料から視点を持って情報を読み取る	複数情報から共通・相違点を見つけることができる	複数情報から矛盾点や欠けている情報を見つけることができる	生成AIの動向調査と活用方法の検討
	B3 創造	情報からわかったことをまとめることができる	情報を組み合わせる新たな意味を見いだす・創る	情報を多面的に見て新たなアイデアを見いだす・創る	表現できる音楽・画像編集ソフトの調査と整備 他地域の視察と研究・情報交換
	B4 伝達内容の構成	話の順番を組み立てることができる	相手を説得するために論理を組み立てることができる	アウトライン(目次)をつくり、内容を構成することができる	シンキングツール・リーディングスキルの活用研究
	B5 表現の工夫	メディアに応じた工夫ができる	伝えたいことに応じて表現を工夫できる	文字・写真・動画等のメディアを組み合わせる表現を工夫できる	表現できる音楽・画像編集ソフトの調査と整備 他地域の視察と研究・情報交換
	B6 受け手の意識	相手を意識して伝え方を工夫する	相手の反応を見て伝え方や内容を工夫する	相手の関心や前提知識に配慮(予想)して伝え方や内容を工夫できる	新聞社をはじめ各種メディアとの情報交換、出前授業の企画・実施
	B7 学習計画	決められた計画に見通しを持つことができる	自分で計画を立てることができる	グループ内で役割分担を考えて計画を立てることができ、その計画に合わせた自らの計画を調整することができる	自己調整能力の研究 時数計算ツールの開発と配備
	B8 評価と改善	学びを振り返ることができる	振り返りをもとに次にやってみようことを考えられる	振り返りをもとに改善策を立てられる	ルーブリック・評価方法の研究
C プログラミング	C1 物事の分解	物事を部品に分けて捉えることができる	部品を組み合わせる物事を表現できる	物事の全体をシステム(部品の関係)で捉えることができる	プログラミングの授業への導入研究・教員研修の実施
	C2 情報の分類	情報を決められた観点に分類・整理できる	観点を考えて情報を分類できる	情報の属性を意識して構造的に捉え、表現することができる	情報活用能力の育成の研究
	C3 情報の関係付け	情報と情報の間にある関係に気付く	情報と情報の関係を図やプログラムで表現できる	情報の規則性、順序、一般性を図やプログラムで表現できる	スクラッチをはじめ活用するプログラミングソフト・ツールの研究と研修
	C4 問題解決の手順	問題解決の流れを手順に表すことができる	問題解決の手続きを順序・繰り返し・分岐などを組み合わせて表現できる	問題解決の手続きをアクティビティ図(概念図)やフローチャート等を用いてモデル化できる	アクティビティ図(概念図)やフローチャート等を用いてモデル化に関する研究と研修
	C5 試行錯誤	うまくいかない時に繰り返し組もうとする	試作やシミュレーションを通して問題解決の方向性や改善策を見いだす	条件を切り分け、解決方法や効率性を論理的に考えて複数のアプローチで取り組んだり、不具合箇所・原因を探ることができる	プログラミングを活用した授業での教員の児童生徒に対する態度(余裕)の研究と研修
	C6 データの傾向	大まかなデータの傾向を見出すことができる	データの変化を捉えて説明できる	表やグラフを用いてデータを統計的に処理することができる	他地域との情報交換と研究
	C7 情報技術の将来	新しい情報技術がどんなものか知る	新しい情報技術にどう関わるか説明できる	新しい情報技術(生成AI等の技術)が社会や産業にどう活用されているか説明できる	文科省の調査・研究・事務連絡等の把握と分析・研究
D 情報モラル	D1 コミュニケーション	相手によって受け止め方が違うことを理解する	発信する情報に責任を持つ	ネットワークの公共性を意識して行動する	情報モラル教材の研究と情報収集
	D2 法と権利	人のつくった作品や情報を大切に作る	著作権や肖像権に留意して情報を扱う	情報の保護や取り扱いに関する法律を理解する	サートラスと授業目的公衆送信保証金制度の理解促進、利用できるサイトや方法の研究(JAPANサーチ・クリエイティブ・コモンズの理解)
	D3 健康と安全	情報機器を使ってよい場所や時間を守る	情報機器を使う場所や時間を自分で管理できる	健康に配慮して情報機器・サービスを活用することができる	文科省や独立行政法人情報処理推進機構(IPA)などが発表するICT活用が健康に及ぼす影響などの科学的データの把握と研究
	D4 ルール・マナー	ルールやマナーが必要であることを理解する	ルールやマナーを相手と一緒に作る	ルールやマナーを自分たち(グループ)で創造・遵守することで問題を解決しようとする	最新動向の調査・研究と児童生徒自ら情報モラルに関するルールやマナーづくりを児童生徒にさせる研究
	D5 セキュリティ	ID・パスワードを安全に管理する	なりすましやウイルスなどの危険を理解する	情報セキュリティの重要性を理解する	ルール・方針の策定
	D6 個人情報	自他の情報をむやみに他人にもらさない	自他の情報が伝わる範囲を考えて行動する	自他の情報を相手や範囲を考えて管理する	情報モラル・情報セキュリティに関する最新動向の研究・研修
	D7 情報社会の将来	情報社会の特色を理解する	情報社会の中でどう生きていくか説明できる	情報社会がどうあるべきかを考え、説明できる	最新動向の研究・高校の情報Iの研究
E 緊急事(防災)	E1 オンライン対応	自宅のWi-Fi、もしくはモバイルルータに一人で接続できる	GoogleMeetで自分の見せたい画面を画面共有できる	GoogleMeetやZoomで質問できたり、関連するサイトのリンクなど情報のやり取りができる	緊急時に対応するために児童生徒に加え、教員も毎日GIGA端末を持ち帰ることの定着
	E2 デジタル教科書の活用	学習者用デジタル教科書を活用できる	学習者用デジタル教科書の機能を理解し、柔軟に活用できる	学習者用デジタル教科書と他のアプリケーションを同時にしよし、データ・情報のやり取りができる	教科書の配信のためのサートラスと授業目的公衆送信保証金制度の理解、指導者用・学習者用デジタル教科書の利活用促進
	E3 緊急連絡等	健康状態の連絡・教員との連絡を取り合うことができる	通常連絡のほか、相談の活用ができる	家庭のほか、学校外・市役所等でフリーWi-Fiを活用して活用(接続)できる	ネットワーク環境の整備と毎日の活用と検証 体育館等避難者受け入れ時のシミュレーション
	E4 記録・保存	毎日の様子を写真・動画とともに記録できる	記録した動画・文章をまとめ、整理することができる	自分だけでなくクラスの仲間やグループ、報道も含めて整理し、まとめることができる(アーカイブとしての意識)	記録・保存に関する活用事例や法律等調査と研究